

# こうざ えもんつうしん 講左衛門通信

平成28年10月23日

第75号

発行 天台宗忍草山東円寺

〒401-0511

南都留郡忍野村忍草38

☎ 0555-84-4114

『今日は、地獄と極楽の話でまっすん。おいらは考え過ぎているかもしれないけれど、なぜ、極楽と地獄ではないでまっすん？講左衛門さん、理由があるでまっすん？』

『さすが、クニマッスンじゃな。良い質問じゃ。しかし、説明するには、とても難しい質問じゃ。クニマッスン、善悪について深く考えてほしいんじゃよ。わしらは、生きるために様々な命を奪って生きておることは分かっておるな。さて、善悪で考えたらどちらかのう。』

『むっ難しい質問でまっすん。おいらは、生きるために小さな魚の命をもらっているけど、それは命をつなぐためには仕方ないことでまっすん。善悪で考えたら善でまっすん。』

『そのように答える人が多いじゃろう。しかし、仏様は、命を奪ってはいけないと言っておるんじゃ。どのような理由でも、命を奪うと罰を受けなければならん。まず、地獄と極楽について、きちんと説明することができた方の話をしようかのう。恵心僧都源信という天台宗のお坊さんがいたんじゃ。源信は、今年6月10日に亡くなられて、1200年になるんじゃよ。源信によって、この世に地獄と極楽があるということが、一般庶民に伝わり、現在に繋がっているんじゃ。源信は、985年に「往生要集」という著書を完成させたんじゃ。これによって、平安時代の文学にも大きな影響を与えておるな、紫式部が書いた「源氏物語」には、「横川の僧都」として、また、清少納言の「枕草子」にも登場しているんじゃよ。』

『源信さんと言えば、念仏法語（横川法語）を書かれた人でまっすん。「夫れ一切衆生三悪道を逃れて人間に生まるること大なる喜びなり・・・」と説かれた人でまっすん？』

『そうじゃ。良く覚えておるな。現在、地獄と極楽が一对として考えられるようになったのも、源信の「往生要集」によるものなんじゃ。仏様の教えの中から取り出して、詳しく説明されているんじゃよ。特に、極楽よりも、地獄の描写が有名なんじゃ。しかし、源信の地獄の話の前に、「賽の河原」の話しようと思っておるんじゃ。源信が影響を受けた和尚さんに、空也上人という人がいたんじゃよ。歴史の教科書には、必ず載っている、口から出た一本の細い針金のようなものに、阿弥陀様のお像が6体並んでいる方じゃ。この方は、「南無阿弥陀仏」と唱えて全国を歩かれたんじゃが、その時目にした悲惨な光景を詩に残しておるんじゃ。この詩は、「賽の河原地蔵菩薩」という和讃になっているんじゃが、忘れてはいけない、様々な歴史が詰まっているんじゃよ。地獄の中でも、一番可愛そうな話なんじゃよ。日本にお地蔵様が多い理由の一つでもあるぞ。』

『では、今回は、「賽の河原」の話でまっすん。悲しい話だけれど、しっかり話を聞くでまっすん。』

『そうじゃな。昔話と思わず、聞いてほしいのう・・・』

クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

口癖 でまっすん・・・



ふじのだいがこうざ えもん 年齢不詳  
富士大我講左衛門

職業 大我講の先達

(先達とは案内責任者)

『講左衛門通信』は、  
第2・第4日曜日に発行予定

講左衛門通信は、東円寺 HP にて  
バックナンバーをご覧いただけます